

■研究・実践の課題（テーマ）

幼稚園・保育園等における感染症対策と衛生管理（手洗い等）に関する研究

■主任研究者 岸本満

■共同研究者 福岡恩

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】幼稚園教育要領および保育所保育指針には、園児の生活習慣を培う場として適切な環境整備を行うことや清潔を保つための行動を園児が能動的に行えるようにするなど、衛生的な環境の保持、衛生慣行の習慣化に関連した事項がある。保育所保育指針「5章健康及び安全の環境及び衛生管理並びに安全管理」の「④子どもへの衛生指導」では、特に手洗いが重要であり、正しい手洗い指導をすることが述べられている。本研究は園児が衛生的かつ効果的な手洗いを習慣化するための教育法を提案するため、園児の手洗い習慣に関する実態や意識、さらに保護者と保育者の指導方法について調査した。また、園における衛生管理・感染症対策の実態を調査した。

【方法】調査対象施設はA県K市のA幼稚園とB保育園。事前に各園の手洗い設備や園児の手洗いの様子を目視観察、実態を把握したのち調査用紙を作成、各園の保育者を対象に「園における衛生管理・感染症対策に関する調査」、保護者を対象に「家庭での手洗いに関する調査」を実施した。保育者には業務における衛生管理・感染症対策の優先度や、「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく項目を質問した。また、保護者には①手洗い習慣の有無、②家庭での手洗い頻度、③手洗いの所要時間、④使用する衛生資材、⑤手洗い時のことばがけなどについて質問した。有効回答数はA幼稚園：保育者13、保護者196、B保育園：保育者14、保護者27だった。データ解析はクロス集計（Microsoft excel）等で行った。

【結果】保育者は「業務における衛生管理、感染症対策の優先度」は高く、園児が安全で衛生的な環境で生活が送れるよう掃除や消毒をしていた。しかし、適正な衛生管理の方法がわからない、知らないといった回答があり、施設における衛生管理、感染症対策の標準化、マニュアルの作成、情報の共有化、教育訓練の充実などの課題があることが予測された。保護者調査の結果、家庭での手洗い回数は園の滞在時間の長い園児で少なく、また手洗い時間は幼稚園児の70%が30秒以上、保育園児の60%が10秒以内であったことから、手洗い方法、手洗い指導等が各園で異なることが予測された。なお、多くの家庭ではハンドソープを使用していたが、各園では固形石鹸が設置、使用されており、石鹸を介しての汚染や感染が起こるリスクもあるため、液体ないし泡状のハンドソープへの切り替えを提案したい。